

## 第14回小諸新校再編実施計画懇話会

日時：令和5年2月24日（金）

18時～19時30分

会場：小諸市市民交流センター

### <次第>

#### 1 開 会

#### 2 挨 拶

#### 3 会議事項

- (1) 第13回小諸新校再編実施計画懇話会まとめについて
- (2) 施設整備について
- (3) 小諸新校の校名選考について
- (4) 新校開校に向けた検討事項の進捗状況について

#### 4 その他 <次回の予定>

○第15回小諸新校再編実施計画懇話会

【日時】 未定（4月下旬から5月下旬）

【会場】 小諸市役所 第1・第2会議室

【内容】 施設整備について 他

#### 5 閉会

## 小諸新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○ = 新構成員

区分	氏名	所属等
自治体	田中 尚公	小諸市 副市長
	山下 千鶴子	小諸市教育委員会 教育長
	市川 美香	北佐久郡町村教育委員会連絡協議会 御代田町教育委員
産業界	塩川 秀忠	小諸商工会議所 会頭
	宮崎 翔平	小諸青年会議所 理事長
	清水 信	さくさく農園 代表 (小諸市PTA連合会 会長)
学識経験者	西村 廣一	元小諸高校・小諸商業高校校長
地域	甘利 庸子	のぞみグループ 代表取締役社長
	高橋 功	佐久地域振興局 局長
同窓会	高見澤 敏光	小諸商業高等学校同窓会 会長
	鷹野 昭裕	小諸高等学校同窓会 会長
PTA	紙尾 めぐみ	小諸商業高等学校PTA 会長
	小林 紀子	小諸高等学校PTA 会長
学校関係者	塚田 直道	小諸市校長会 会長
	鹿取 俊彦	小諸市内中学校代表 校長
再編対象校	○伊藤 亜恋	小諸商業高等学校 生徒会長
	○坂井 洸太	小諸商業高等学校 生徒会副会長
	○名取 朋哉	小諸高等学校 生徒会長
	○糸井 柚菜	小諸高等学校 生徒会副会長
	坂口 健之	小諸商業高等学校 校長
	原 周一郎	小諸商業高等学校 教諭
	井村 敏明	小諸高等学校 校長
	木住野 修平	小諸高等学校 教諭

### 事務局

小諸商業高等学校		小諸高等学校		高校再編推進室	
三宅 浩一	(教頭)・事務局長	細萱 裕樹	(教頭)・副事務局長	山岸 明	主幹指導主事
原 周一郎		木住野修平		柳沢 勝美	主任指導主事 (小諸新校担当)
中村 幸司		山浦 雄介			
滝沢 純一		井出 玲子			
中山恵理奈		坂口 俊夫			

## 第 13 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ

<b>日時</b>	令和4年(2022年)11月21日(月) 18時00分～19時00分 (小諸市役所3F会議室)		
<b>方法</b>	Zoomも用いたハイブリッド会議		
<b>出席</b>	懇話会構成員 21名		
<b>欠席</b>	懇話会構成員 2名	<b>傍聴者</b>	傍聴 8名
<b>事務局</b>	小諸商業高校	三宅教頭(事務局長)、滝沢教諭、中山教諭	
	小諸高校	細萱教頭(副事務局長)、木住野教諭、坂口教諭、井出教諭、山浦教諭	
	県教育委員会	堀田企画幹、本山主任指導主事、石井主事、塩川施設係主査、柳沢勝主任指導主事	
<b>当日資料</b>	第13回懇話会次第、第12回懇話会まとめ、 施設整備について 小諸新校の校名選考について		

### 会議事項

- 1 会議 (1) 第12回懇話会まとめ  
(2) 施設整備について (3) 小諸新校の校名選考について
- 2 連絡事項 次回懇話会開催 令和5年2月上旬の予定 小諸市役所第1・第2会議室

### 意見交換 ⇒ 県教委 ◆ 事務局 → 西澤奥山小坂森中共同企業体

#### 【施設整備についての意見交換】

- ⇒ プロポーザルの状況について報告し、最適候補者に選ばれた「西澤奥山小坂森中共同企業体」から自己紹介及び提案のポイントについて説明。二次審査会のプレゼンテーションの動画を視聴後に意見交換。
- 校舎建築時の防音対策はどのように考えているのか。
- 夏休み等の長期休業中に工事を計画している。防音と安全確保は大前提と考えているので、その計画を今後検討していく。

#### 【小諸新校の校名選考についての意見交換】

- ◆ 211件、119の校名案候補の応募があったことを報告。このうち、県内に同名校がある等の理由により、10の候補を1次投票の対象外としたことについて説明。 ➡ 異議なし
  - ◆ 一次投票の結果、0票であった86の候補を二次投票の対象外とすることを提案。 ➡ 異議なし
  - ◆ 応募数と投票数が一番多かった「小諸義塾」を二次投票の対象とすることを提案。 ➡ 異議なし
  - ◆ 二番目に投票数の多かった「小諸」と「小諸総合」を二次投票の対象とすることを提案。
  - 「総合高校」は、一般的に総合学科や総合選択制の学科の通称として使用されることが多いと理解しているが、通念上の整合性等は問題ないのか。
  - ◆ 二次投票の対象となった候補に対して調査をする。本日は「得票の多かったもの」という観点で残したい。 ➡ 異議なし
  - ◆ 「小諸梅花」と「小諸奏風」を二次投票の対象とすることを提案。 ➡ 異議なし
  - ◆ 今後の調査により、権利の問題等で採用できない候補が含まれている可能性も考えられる。については、決定した5案に2案程度を加えたい。 ➡ 異議なし
  - ◆ (構成員から意見が出なかったため)「小諸結峰」と「嶺風小諸」を二次投票の対象に加えることを提案。 ➡ 異議なし
- ◎ 懇話会として「小諸義塾」「小諸」「小諸総合」「小諸梅花」「小諸奏風」「小諸結峰」「嶺風小諸」の7案を二次投票の対象とすることを決定。

# 小諸新校 NSD会議設置要綱（案）

高校再編推進室

## 1 目的

県教委が、小諸新校再編実施計画懇話会における意見交換を受けて「施設整備事業基本計画」を策定するにあたり、小諸新校再編実施計画懇話会に専門会議（NSD会議）を設置して事前に意見交換することによって、小諸新校再編実施計画懇話会の意見交換を円滑に進めることを目的とする。

※NSD…長野県スクールデザインの略

## 2 運営

- (1) 会議には部会長を置く。
- (2) 会議は、構成員の過半数の出席をもって成立する。
- (3) 会議は原則として非公開とする。

## 3 内容

- (1) 施設整備事業基本計画策定に係る意見交換
- (2) ワークショップ等への参加
- (3) 会議内容の懇話会への報告

## 4 構成員

小諸新校再編実施計画懇話会構成員の中から、選出母体のバランス等を考慮して、10～15名程度で構成する。

ただし、代理の出席を可とする。

小諸新校再編実施計画懇話会 NSD会議構成員（案）

	区分	氏名	所属等
1	自治体	田中 尚公	小諸市 副市長
2	産業界	塩川 秀忠	小諸商工会議所 会頭
3	学識 経験者	西村 廣一	元小諸高校・小諸商業高校校長
4	同窓会	高見澤 敏光	小諸商業高等学校同窓会 会長
5		鷹野 昭裕	小諸高等学校同窓会 会長
6	再編 対象校	伊藤 亜恋	小諸商業高等学校 生徒会長
7		坂井 洸太	小諸商業高等学校 生徒会副会長
8		名取 朋哉	小諸高等学校 生徒会長
9		糸井 柚菜	小諸高等学校 生徒会副会長
10		坂口 健之	小諸商業高等学校 校長
11		原 周一郎	小諸商業高等学校 教諭
12		井村 敏明	小諸高等学校 校長
13		木住野 修平	小諸高等学校 教諭

WG-D 校舎・施設（上記の校長と教諭を除く）

小諸商業高等学校		小諸高等学校		高校再編推進室	
三宅 浩一	教頭	細萱 裕樹	教頭	柳沢 勝美	主任指導主事 (小諸新校担当)
若林 繁	事務長	小林由木夫	事務長		
浅沼 光貴	教諭	井出 玲子	教諭		
	教諭	坂口 俊夫	教諭		
	教諭	山浦 雄介	教諭		

R4年度 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 R5年度

基本計画

基本設計

実施計画

工事

<ステークホルダーへの対応>

○必要に応じて個別対応のヒアリング

- 生徒
- 教職員
- 同窓会
- PTA
- 産業界
- 校地周辺住民 等々

○必要に応じてアンケート

- 生徒
- 教職員
- PTA 等々

意見の整理

随時基本計画をブラッシュアップ

随時ヒアリング・アンケートを実施

県教委により  
基本計画・決定

シンポジウム

懇話会

懇話会

懇話会

懇話会

承認

報告 相談

NSD会議

- ・校長、教諭
- ・生徒
- ・同窓会
- ・その他

NSD会議

NSD会議

NSD会議

NSD会議

ワークショップへ参加。

意見 提案

ワークショップ

ワークショップ

ワークショップ

ワークショップ

ワークショップ

【学習】  
【生活】  
【執務】  
【共創】

WSで行う意見交換のテーマを決定。  
(複数回実施予定)  
多様な視点を掘り下げる。

## 【基本計画策定支援業務の流れ】

- ・懇話会を軸にステークホルダーと合意形成を図り、WSやNSD会議等での意見交換や提案を踏まえ、基本計画を策定していく。

## 【シンポジウム】

- ・「基本計画策定シンポジウム」を実施予定。（開催時期未定）

## 【懇話会の流れ】

- ・懇話会に設けるNSD会議の意見交換の状況を本会に報告しながら、基本計画を共に作成。
- ・懇話会では拾いきれない多様な意見をWS等を通して計画へ反映。

## 【ワークショップの流れ】

- ・NSD会議のメンバーを含む、WSを実施し、多様な人との対話の中で、新校の学びや空間について意見交換を行っていく。

【概要】小諸新校施設整備基本計画 工程表(案)

R5.2.24現在

高校再編推進室

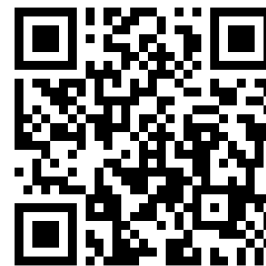
	R4年度				R5年度		
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
基本計画検討	与条件整理/地盤、法規、規模、必要諸室検討						基本計画まとめ
	配置の検討						
					学習空間の検討		
既存校舎調査	調査	CAD化	改修方法の検討	学習空間の検討			
ワークショップ (WS)	☆2/9 WS1【シンポジウム】 対象:職員・生徒・地域住民など ①NSDとは?②事例から考える						
	☆3/3 WS2【模型から想像する】 対象:職員・生徒 ①アンケートを反映させた提案書 ②模型から想像する						
	☆3月中旬～下旬 WS3【地域との連携を考える】 対象:地域住民・OBOG ①地域が望む学校の在り方 ②地域連携の空間等						
	☆4月上旬～中旬 WS4【みんなで考える新しい学校】 対象:職員・生徒・地域住民など WS2で得られた意見を基にNOKSから複数プランを提案						
	◎WS1～4の状況によりWS5・6を開催						
懇話会	第14回			第15回			

# 学校づくりアンケート(小諸商業高校 × 小諸高校)

みなさまはじめまして。

「小諸新校施設整備事業～NSDプロジェクト～」の設計チームです。

あたらしい学びの場として小諸新校がどんな場所になってほしいのか、ぜひみなさまのご意見を聞かせてください!ご記入内容は、小諸新校の設計の参考にさせていただきます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします!



こちらからオンラインで  
ご回答いただけます。

- ご提出期限:令和5年2月28日
- ご提出場所:小諸商業高校事務室/小諸高校事務室/オンライン

## 1.小諸新校はどんな場所になったらいいと思いますか?

以下の項目から、当てはまるものに○をつけてください。【複数回答可】

- ・学びの場
- ・多世代交流の場
- ・趣味活動ができる場
- ・思い出を残す場
- ・その他( )

## 2.小諸新校とともに取り組んでみたい活動はありますか?

以下の項目から、当てはまるものに○をつけてください。【複数回答可】

- ・防災訓練
- ・学校支援活動
- ・ICT機器やWi-Fi環境などを活用した授業
- ・3Dプリンターなどを活用した工作
- ・地域課題を解決するような研究授業
- ・生徒さんと製品(野菜など含む)の共同企画/販売
- ・楽器演奏のレクチャー
- ・その他( )

## 3.小諸新校について、設計者へのご意見や聞きたいことなどありましたら教えてください。

・よければ教えてください。あなたのご年齢は?

10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代以上

・ご職業は何をなさられていますか?

会社員 公務員 自営業/個人事業主 会社役員 専業主婦・夫 学生 アルバイト/パート  
その他( )

・(可能であれば)ご連絡先(電話もしくはe-mail)を教えてください  
( )



## 小諸新校 校名募集要項（素案）【概要】

<b>公募期間</b>	1 か月
<b>選考の観点</b>	<p>①校名は「長野県 ～ 高等学校」とする。</p> <p>②「学科・教科横断型の学び」のできる普通科・音楽科・商業科が融合した校名として分かりやすい名称であること。</p> <p>③「地域と連携した本物の学び」を進める学校として新校に対する地域の願いや期待が表出されていること。</p> <p>④小諸高等学校と小諸商業高等学校の歴史や伝統を引き継ぎつつ、新たな学びのできる学校として、未来に向かって育っていく生徒達にふさわしいものであること。</p>
<b>選考方法</b>	<p>校名選考にあたっては選考の進め方や方法、公募結果、選考結果を懇話会にて報告し、意見交換を行った上で実施する。</p> <p>〔一次選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・公募結果を参考に懇話会で校名案を 3 案にしぼる。</li><li>・校名案の再検討を含め、構成員からの案を二次選考の候補に加える。</li></ul> <p>〔二次選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・一次選考結果の 3 案に、構成員からの提案を加えた案を二次選考候補とし、そこから 2 案を最終選考候補とする。</li></ul> <p>〔最終選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・二次選考結果の 2 案から校名候補を選考する。</li></ul>
<b>公募方法</b>	<p>①期間：令和 4 年 月 日 ～ 令和 4 年 月 日</p> <p>②内容：校名案と理由</p> <p>③方法：応募資格の制限はなく、郵便、FAX、電子メール、事務室への持参</p>

## 小諸新校 校名募集要項（案）【概要】

<b>公募期間</b>	1か月
<b>選考の観点</b>	<p>①校名は「長野県 ～ 高等学校」とする。</p> <p>②小諸商業高等学校と小諸高等学校の歴史や伝統を引き継ぎつつ、生徒たちが新たな学びに大きな希望を抱き、未来に向かって育っていくことができる学校像が表現されている。</p> <p>③「学科・教科横断型の学び」のできる普通科・商業科・音楽科が融合した学校として分かりやすい校名である。</p> <p>④「地域と連携した本物の学びに触れる」ことを進める学校として、地域の願いや期待が表出されている校名であること。</p>
<b>選考方法</b>	<p>校名選考にあたっては選考の進め方や方法、公募結果、選考結果を懇話会にて報告し、意見交換を行った上で実施する。</p> <p>〔一次選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公募結果を参考に構成員による一次投票を行う。</li> <li>・公募及び一投票の結果を参考に懇話会で校名案を3案程度にしぼる。</li> <li>・校名案の再検討を含め、構成員からの案を二次投票の対象に加える。</li> </ul> <p>〔最終選考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二次投票の対象となった校名案候補に対し、商標権等の調査を行う。</li> <li>・商標権等の調査結果を踏まえ、構成員による二次投票を行う。</li> <li>・商標権等の調査及び二次投票の結果を参考に懇話会で校名案候補を選考する。</li> </ul>
<b>公募方法</b>	<p>①期間：令和4年9月9日 ～ 令和4年10月8日</p> <p>②内容：校名案と理由</p> <p>③方法：応募資格の制限はなく、郵便、FAX、電子メール、事務室への持参</p>

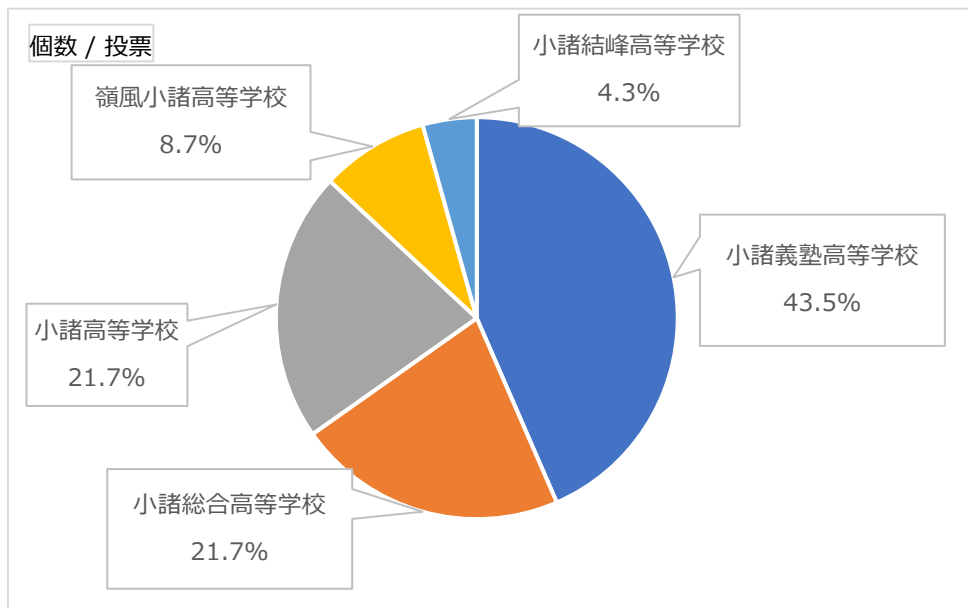
## 小諸新校校名案候補(一次選考結果)の商標権調査及び有識者への相談結果

高校再編推進室

No	校名候補	読み	商標権		有識者見解			備考
			可否	理由	文字表記	語意等	ご意見	
1	長野県小諸義塾高等学校	こもろぎじゅく	○		○	○	明治時代に実在した「小諸義塾」の歴史等を正しく認識したうえで、今回の再編の理念・新校のイメージ・地域の思い等が結びつくような意味づけができれば問題ない。	義塾とは、「義捐金で公益のために設けた塾（広辞苑）」であるため、一般的には「私立」に使用するイメージが強い。
2	長野県小諸高等学校	こもろ	○		○	○		
3	長野県小諸総合高等学校	こもろそうごう	○		○	○		一般的には「総合学科高校」に使用する名称
4	長野県小諸梅花高等学校	こもろばいか	×	同名の商標登録があるため使用不可				
5	長野県小諸奏風高等学校	こもろそうふう	×	同音の商標登録があるため使用不可				
6	長野県小諸結峰高等学校	こもろゆいほう	○		○	○	典拠を明確にする必要がある。	
7	長野県嶺風小諸高等学校	れいふうこもろ	△	似た音の商標登録があるため可否の判断は難しい	○	○	典拠を明確にする必要がある。	「LEIF」、「レイフ」という似た音の商標登録があるため、訴訟を起こされる可能性もある。

# 小諸新校 校名選考 地域懇話会構成員アンケート集計結果

校名候補	投票数
小諸義塾高等学校	10
小諸高等学校	5
小諸総合高等学校	5
小諸結峰高等学校	1
嶺風小諸高等学校	2
合計	23



## 選考の理由

### 【小諸高等学校】

- ◆小諸に存在する唯一の高等学校として、普通科、商業科、音楽科の3科がひとつとなって様々な分野で花開くことを願います。
- ◆ 最初、小諸義塾と思いましたが、有識者の見解などで引っかかる点があるのが気になりました。小諸にある高校ということで、シンプルで覚えやすいのが良いと思います。また、小諸商業高校に新校が出来るので、小諸高校の名前を残すことで、お互いの卒業生に母校として親しんでもらえるのではないかと思います。
- ◆1番シンプルで校名変更による混乱が少ないと考えるため。

### 【小諸総合高等学校】

- ◆小諸高校と小諸商業が一つになることもあり、総合という表記が適切かと思えます。また、普通科・商業科・音楽科が融合する学校として総合と言う呼称が生徒達からみても総合的な事を兼ね備えた学校なんだなと思ってもらえると思ったためです。
- ◆職業科もあることから総合的な高校とする意味
- ◆小諸と小諸商業の両方が合わさって総合となった、と考えるととてもしっくりきます。卒業生からも違和感がないと思います。全くなかった言葉を挟むことで元の高校名が分からなくなってしまうように感じます。
- ◆シンプルで馴染みやすい名前が良いと思った。音楽科、商業科、普通科が合わさって総合的に学ぶことができる学校だと思った。
- ◆理由としては具体的な名前を挙げてしまいましたが、佐久平総合技術高等学校との対照としてなり得るからです。私は佐久に住んでおり、佐久総はとても人気のある学校でした。将来の夢が明確にあるからこそそこに行くような志願者が多く、小諸高校の音楽科、小諸商業の商業科、会計システ

### 【嶺風小諸高等学校】

- ◆「嶺」は小諸を囲む山々を思いおこし、「風」は小諸を駆け巡る爽やかな空気を感じさせます。小諸という豊かで綺麗な地に新たにできる高校の名前にふさわしいと思います。

### 【小諸結峰高等学校】

- ◆小諸新校の学びをイメージした校名としてふさわしいと考える。「学科・教科横断型学習」や「地域連携」といった学習により、多くの人と関わり、「縁を結ぶ」ことにより、人とつながり、豊かな人生を送ることができる。「峰」は浅間山に代表される小諸から見える山々の美しさを表している。新しい学校は未来に向かう子どもたちの学校であることを、まず第一に考えるべきである。

#### 【小諸義塾高等学校】

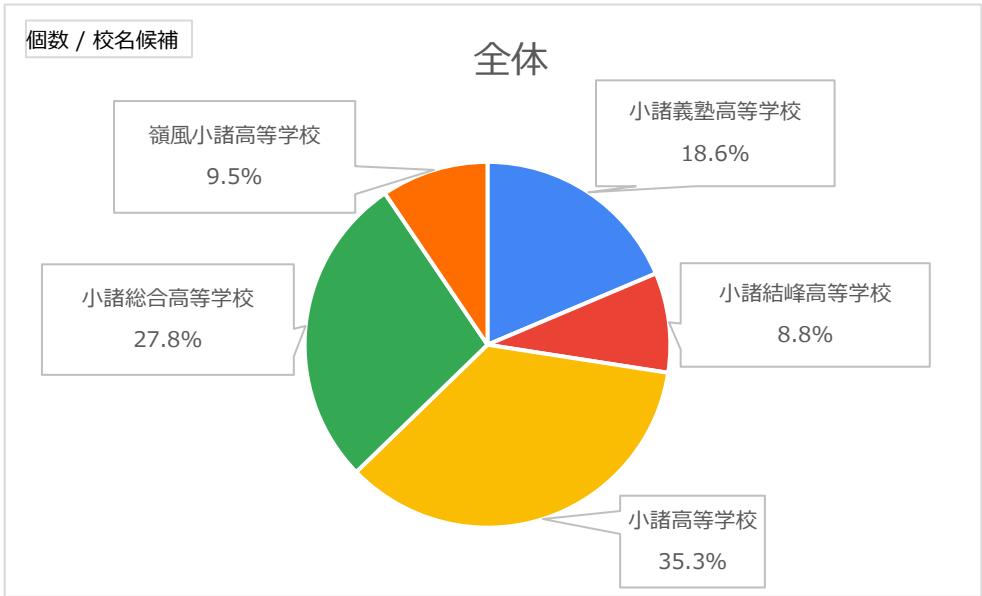
- ◆小諸市の歴史や伝統を引き継ぎながら、新時代を切り開き、社会に貢献する有望な人材の輩出の学びやとしてのイメージが高まる。
- ◆①1893年高等小学校を卒業した青年の勉強の場の必要性を痛感した佐久地方代議士早川権弥が、木村熊二を小諸に招いて開校。島崎藤村、丸山晚霞等が教鞭を取り、内村鑑三、柳田國男らも関わった。義塾の運営は主に、生徒の月謝と町議会・郡議会の補助金で運営していたが、財政難・学校の運営方針での町と教員との意見の相違で1906年3月閉校。教員にとって追われた感があるのは否めない。1906年4月、教育の灯を消さないとの強い地元の要望で、小諸町立小諸商工学校(商業部、女子技芸部。現在の小諸商業、小諸高校)が開校。小諸義塾の校舎を転用。少子化の影響もあり、両校は統合し120年の個別校の幕を下ろす。2026年(令和8年)4月に小諸商業と小諸高校は統合⇒直接的な継承ではないが、教育の灯を消さないとの地元の想いは1893年から続いており、島崎藤村を始めとして著名な賢人が関わっており、歴史と文化の香りを持つ。また、1906年の閉校も今回のことで賢人の想いを受け継ぐことにもなるのではないだろうか。② 義塾とは、生徒・地元が金を出し合って学校運営や教育の充実に努めた私塾との意味合いが強いと言われる。しかし、今回の新校は「小諸共学共創コンソーシアム」をコンセプトに「地域連携協議室」を設け、地域の方々(行政、企業、住民)を中心に、大学そして幼保小中学校まで広げ、全ての「知」を集集しての学校を目指しており、地域で支え合う地域へ根差した「地域と連携した本物の学びに触れる」学校と言える。ハード(金)ではなくソフト(知)を出しあつての学校で、義塾の意味合いにも繋がるのではないか。③ 「学校づくり」は「まちづくり」である。エリア(小諸)の価値を考えると、「古くて新しいもの」と言える。正しく「小諸のまちづくり」は古いものを活かしつつ、新しい発想を導入して進めている。このことは「校名：小諸義塾」に通じるものである。
- ◆ 小諸の教育の礎を築いた伝統ある校名を引き継ぎ、未来に発展して欲しい。「義塾」の名称は、広く一般人のために作られた学塾、寄付などでつくられた公益のための塾、などと解されているが、現在では義捐金・寄付金でつくられた私塾的なイメージとして一般的に解釈されている。しかし、小諸義塾は生徒・地元が金を出し合って学校運営をされ、教育の充実に努められた塾であることは、「広く一般人のために作られた学塾」、「寄付などでつくられた公益のための塾」と解釈できるのではないか。
- ◆ 「小諸義塾高等学校」今回の小諸新校は、小諸共学共創コンソーシアムをコンセプトに「地域連携協議室」を設け、地域の方々(行政・企業・住民)及び生徒を中心に、大学や幼保小中学校まで広げ、すべての『知』を集集しての学校を目指しており、地域で支え合う地域へ根差した学校と言える。したがって、ハード「金」ではなく「知」を出し合つての学校であり、まさに、「広く一般人のために作られた学塾」「公益のための塾」であり「義塾」の意味合いにもつながるものとする。「義塾」の意味合いを、今こそ私塾的なイメージを解き、「公益のための公共塾」との固有名詞として、未来の新しい教育に向かって定着させるために、長野県教育委員会から発信されることを望みます。
- ◆小諸高校と小諸商業高校の原点
- ◆①小諸義塾は、閉校後にその校舎が小諸町立小諸商工学校(現在の長野県小諸高等学校および長野県小諸商業高等学校)に転用された。2校とのつながりがある。②小諸義塾は、高等小学校を卒業した青年の勉強の場の必要性を痛感した佐久地方の代議士早川権弥が、木村熊二を小諸に招いて開校した学校。子どもたちにとって学びが重要であるという考えに基づいた学校であり、新校の設立にふさわしい。③小諸義塾では、内村鑑三らが講演会を開き、島崎藤村が英語・国語の教鞭をとった。また、三宅克己、丸山晚霞、鮫島晋らも教鞭をとった。柳田國男、有島生馬らも訪れた。このような多彩な方々が教鞭をとったことから、「学科・教科横断型の学び」を目指す学校として校名にふさわしい。④小諸義塾は、旧制中学校であり、修了時の年齢が17歳。今の高校生とほぼ同じである。小諸において、現在の高等学校の教育の先駆けである。その名を冠した高等学校であれば、在籍する高校生は胸を張って学び、卒業後に自信をもって自分の道を歩んでいけることが期待できる。
- ◆義塾という意味に私という意味があるようですが、小諸は伝統的にこの言葉の意味や意義に価値を見だし歴史的にも小諸独自の風土、文化を尊重し先進的な教育の充実にめざしてきた経緯がある。こうした意味を込めて馴染みのある義塾という言葉にしたい。
- ◆ 小諸義塾は、佐久地方の高等小学校を卒業した青年の勉強の必要性を痛感して木村熊二を小諸に招いて開校したもの。地域が、地域の人材を育むことを目的として創設し、町議会・郡議会からの補助金も運営費とされた。残念ながら、財政難で閉校したが、地域の人材を育てる想いは、小諸義塾の跡地等に創設された小諸商工学校に受け継がれ、幾多の変遷を経て現在に至っている。小諸商業高等学校と小諸高等学校の歴史や伝統を引き継ぎつつ、地域と連携した本物の学びに触れながら、未来に向かって育っていくことができる学校像として相応しい校名と考える。
- ◆ ①小諸市民や同窓生になじみのある名称で、これから新たな学びに向かっていく学校を、地域や同窓生と一緒にあって共創していくことができる。②市民の方から大多数の応募があり、新校に対する期待の表れ・象徴だと感じる。③温故知新。過去に捉われるのではなく、両校の伝統を引き継ぎながらも新たなことに挑戦していく、新校の目指す学びの姿を重なる部分がある。

小諸新校 校名選考 職員・生徒アンケート集計結果

参考

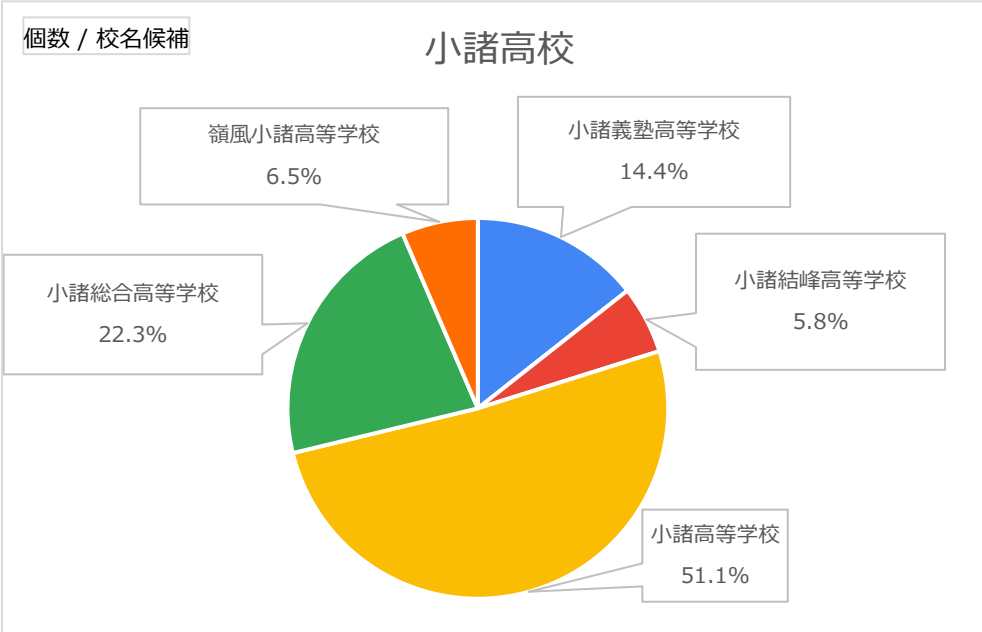
全体

校名候補	投票数
小諸義塾高等学校	57
小諸高等学校	108
小諸総合高等学校	85
小諸結峰高等学校	27
嶺風小諸高等学校	29
合計	306



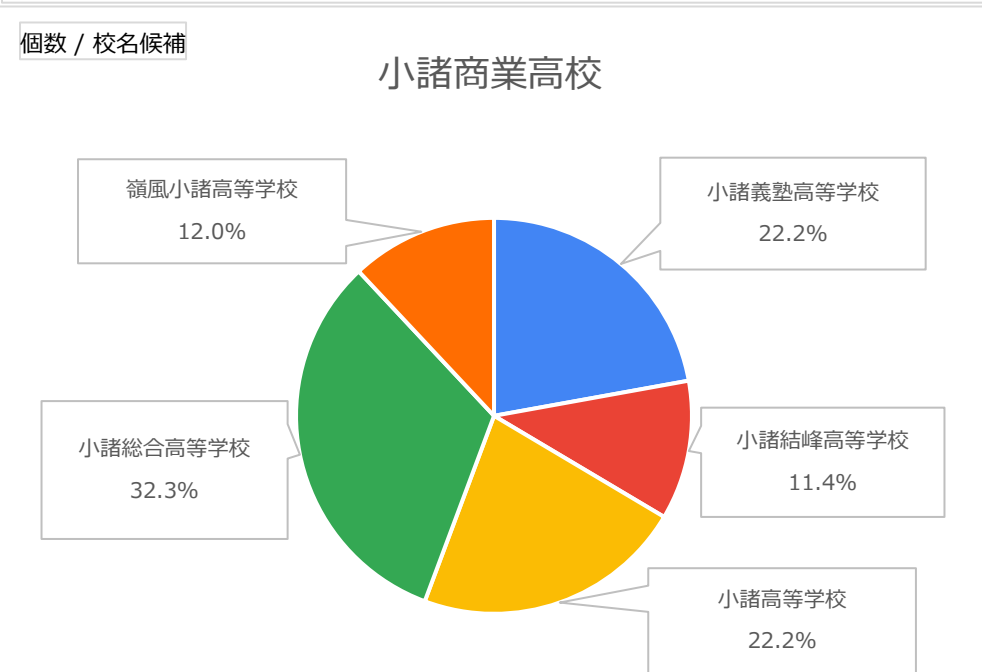
小諸高校

校名候補	投票数
小諸義塾高等学校	20
小諸高等学校	71
小諸総合高等学校	31
小諸結峰高等学校	8
嶺風小諸高等学校	9
合計	139



小諸商業高校

校名候補	投票数
小諸義塾高等学校	37
小諸高等学校	37
小諸総合高等学校	54
小諸結峰高等学校	19
嶺風小諸高等学校	20
合計	167



# 小諸新校 校名募集の流れ(案)

第12回懇話会資料  
(令和4年8月18日)

高校再編推進室

長野県教育委員会

新校準備委員会

第1期高校再編時の校名選考の情報提供

選考の観点、選考方法の検討・原案作成

⑪懇話会(R4.5.16)

選考の観点、選考方法について意見交換

小諸新校「校名」募集要項(案)の作成

選考の観点、選考方法の再検討

⑫懇話会(R4.8.18)

小諸新校校名募集要項(案)について意見交換

小諸新校「校名」募集要項の決定

9月上旬～10月上旬

小諸新校「校名」募集の公募開始

応募された校名案の整理

【一次】投票

⑬懇話会(11月～12月)

公募結果の説明、校名案候補の一次選考

同名校、権利侵害等の調査

校名案候補 一次選考の整理

【二次】投票

⑭懇話会(1月～2月)

校名案候補の決定(最終選考)

同名校、権利侵害等の調査

再編対象校の校長から具申

R5年4月or5月

教育委員会定例会で校名案の決定

R7年11月

県議会11月定例会で正式決定